

「市民みんなで支える 楽しい子育てのまち」 を目指して

市では、次世代育成支援対策推進法に基づき、平成17年度から平成21年度までを前期の計画期間とする「成田市次世代育成支援行動計画」を策定しています。

計画の基本理念は「市民みんなで支える楽しい子育てのまち」。この基本理念を実現するために、子どもと子育て家庭への支援に関連する総合的な施策・事業の展開を図っています。

本号では、子育て支援策を中心に今年度までの計画の主な進捗状況などについてお知らせします。(全体の進捗状況はP.9に)

地域子育て支援センター

なかよしひろば

すべての子育て家庭のために

子ども館2階にある「なかよしひろば」。明るく広々としたスペースにカラフルな遊具や手作り感いっぱいの可愛い品々に囲まれて、親子の笑顔があふれます。

「多いときには日に50組ほどの親子が来るんですよ」と保育士の古関さん。子どもたちの元気な姿とそれを見守るお母さんたちの優しいまなざしが印象的です。

疑問や悩みについて、親同士が互いに情報交換できる「親子間の交流の場」、保育士と看護師が子どもに危険が及ばないか注意深く見守ってくれる「安心して遊べる場」として子育てママたちに好評、同年7月には三里塚コミュニティセンター内に二つ目のひろばが誕生しました。

「核家族の転入世帯が多い」成田という土地柄にもよるのかもしれないですが、誰かに打ち明けたいのに親類や知人が側にいない人が多いようですね。そうすると結局、一人で抱えこんでしまう」と古関さん。ほかのスタッフも「少しでも悩みを持つお母さんは、ぜひひろばに遊びに来てほしい」と口をそろえます。

地域子育て支援センター

すべての子育て家庭のための交流の場として、現在、子ども館と三里塚コミュニティセンター内の「なかよしひろば」、赤荻保育園(青空ゆめひろば)、大栄保育園(ひだまり)、宗吾保育園、公津の杜保育園の6カ所に設置。集まりやすい地域の拠点をさらに設置していくことが今後の課題となっています。



くつろいで紙芝居に聞き入る親子。なかよしひろばはホッと一息できる場です

なかよしひろばは、平成17年2月に加良部にオープンした子ども館の2階に常設されました。市の次世代育成支援行動計画では、子育て支援策の中心を担う「地域子育て支援センター」として位置付けられており、午前9時から午後4時30分まで月曜日を除くほぼ毎日開放されています。

「週に1、2回は来ますよ」と笑顔を見せるのは、もうすぐ2児の母となる石川容子さん(不動ヶ岡)。2歳のお子さんが6カ月のときからずっと通っている、なかよしひろばの常連さんです。「最初は子どもに場慣れさせた

子育ては孤独...でも一人で抱えないで

みんなで一緒に「親子であそぼう会」

なかよしひろばでは、参加者みんなが楽しめるように「親子であそぼう会」が定期的に開かれて

迎えます。友人に紹介されて初めて参加したという藤倉史子さん(幸町)は「みんなでわいわいと楽しめました。今日習った体操を自宅でもやりたいですね。また遊びに来ます」と楽しそうに話していました。ほかにも絵本の読み聞かせや身体測定も行われているので、お目当てのイベントに参加してみたいかがでしょうか。

多様な保育サービスの提供

病児保育室 ゼファイルス

子どもの急な病気で困ったときに

平成16年度に実施したアンケート調査では、子どもが病気で保育園を休んだときの対処方法として「母親が仕事を休んだ」という結果が53%を占めていました。そうした病児回復期の子どもたちのために利用してみたいサービスとして

「専門の設備が整った環境で見てもらいたい」と希望する保護者が多くいました。

このような要望を受けて、今年4月から病児保育室ゼファイルスがスタートしました。

病院に併設なので お願いしました

「子どもが夏かせにかかって、どうしようかと悩みました。いつもなら実家に預かってもらおうのですが、都合がつかず、今朝こちらに電話で申し込みました。



床暖房も完備した保育室

看護師から1日の様子を伝えます

「ゼファイルスのことは、保育園にあったチラシで知っ

お子さんにも保護者にも
安心してもらえるように

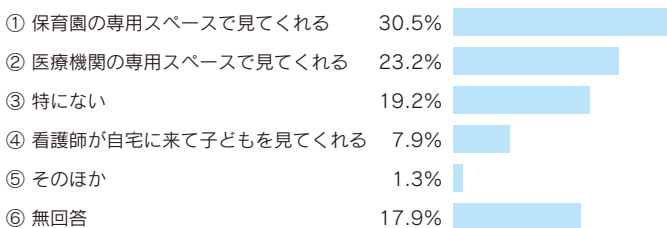
ゼファイルスでは、専属の看護師と保育士が、子どもを預かってくれます。

「初めての場所ということでお母さんもお子さんもお不安だと思います。特に病気なのでなおさらです。その不安を取ってあげるのが一番気を使っています。自然に家庭で過ごすような雰囲気づくりに心掛けています」とやさしく話す保育士の小倉さん。

「インフルエンザやおたふくかぜにかかったお子さんのための感染症児室も2室用意しています。院長先生も巡回してくれますし、わたしたちスタッフが付きっきりで見えています。お迎えに来たときには、その日の様子を連絡表で説明し、お母さんだけでなく、ほかのご家族にも状態が伝わるようにしています。安全にお預かりしていることを伝えることで、安心感を持ってもらえるよう、心掛けています」と看護師の辰巳さん。

ゼファイルスでは、看護師もあえて白衣でなく、私服で保育に変わっています。そんなところにも、子どもに自然に接する心遣いが感じられました。

病児回復期に利用してみたいサービス



(子育て支援サービスに関するアンケート・平成16年度実施)

保育園

保育園の入園申し込みは毎月行っています。希望する月の前月に、児童家庭課または各保育園に申し込みをしてください。

※毎年4月入所(新年度)の入園受付は、入園の約3カ月前より行われます。くわしくは児童家庭課(☎20・1538)へ。

一時保育

実施場所 松崎(☎26・8289)・吾妻(☎27・5773)・高岡(☎96・0042)・大栄(☎73・3000)の各市立保育園

安心してお預けください

子どもが病気になって、熱があり、食欲がなく、元気がないとき、親ならそばにいてあげたいと思うのは当たり前です。病気のときぐらい、子どもの面倒を見るのは、親の務めだという気持ちもあるでしょう。でも、どうしても仕事を休めない、急な用事ができてしまったということもあります。そんなときは、ぜひ、わたしたちに手伝わせてください。お子さんにとって、お母さん、お父さんに優る看護師はいません。でも、大事な仕事をされているお母さん、お父さんの代わりもいません。お仕事から戻られるまで、わたしたち、なのはなクリニック病児保育室ゼフィルスの医師、看護師、そして保育士



なのはなクリニック
牧瀬 敏裕 医師

が力を合わせて子どもたちをできるだけ安全に、そして快適にお預かりさせていただきます。



感染症児室(2室)は入口も別で安心

スタッフ 看護師2人、保育士3人

保育料 1日3,000円、土曜日・平日6時間まで1,800円

対象と定員 6カ月児〜小学校低学年・10人

曜日は午後1時まで

開室日時 月〜土曜日(金曜日は休み) 午前8時〜午後6時(土曜日は午後1時まで)

大栄支所福祉課

児童ホーム、下総支所福祉課、

保育園、市内各幼稚園、市内各

児童ホーム、下総支所福祉課、

登録用紙配布場所 なのはなクリニック、児童家庭課、市内各

用するにはゼフィルスに前日までに予約が必要です。急な場合は相談してください

住所 吉岡1342-57

利用方法 事前に登録が必要で

す。登録の受け付けは、なのはなクリニック

病児保育室ゼフィルス

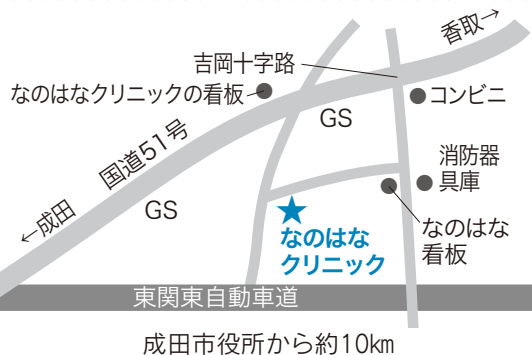
なのはなクリニック

病児保育室ゼフィルス

人、保育助手1人
※保育室の事前見学も随時受け付けています(受け入れ児の状態によりお断りすることも



安心と安全をモットーに、わたしたちが責任を持ってお預かりします(ゼフィルス・スタッフ)



あります。くわしくは、なのはなクリニック病児保育室ゼフィルス(☎73-8110)へ。

よび宗吾(☎26-2472)・公津の杜(☎29-6551)・三里塚第一(☎35-0165)・三里塚第二(☎35-0081)・成田(☎22-0856)・つのおえ(☎22-0867)・月かげ(☎96-0531)の各保育園
※予約制です。くわしくは各保育園へ。

休日保育

対象 日曜日に就労している子育て世帯で、市内の保育園に入園している乳幼児

保育日 日曜日

保育時間 午前8時30分〜午後3時30分

場所 公津の杜保育園

※利用の際は事前に電話で連絡してください。くわしくは公津の杜保育園(☎29-6551)へ。

児童ホーム
児童ホームは、保護者が就労などにより昼間いない家庭の児童に、適切な遊び・生活の場を与え、健全な育成を図ることを目的とする施設で、現在市内には14カ所設置されています。※申し込みなどくわしくは児童家庭課(☎20-1538)へ。

5 広報なりた2007.10.15 ☎/市外局番の記載のないものは「0476」です

なりたファミリー・サポート・センター

できる人が、できるときに できる範囲でお手伝い

なりたファミリー・サポート・センターは、子育てのお手伝いをしたい人(協力会員)と子育ての手助けをしてほしい人(利用会員)として両方可能な人(両方会員)とで組織され、地域において会員同士で子育てを支援する相互援助活動を行っています。

学校行事のときに助かっています

「授業参観や保護者会で上の子の様子をゆっくり見ることができたら...」と思っていたところ、ファミリー・サポート・センターの記事を見つけ入会しました」と利用会員の工藤さんは入会のきっかけを話します。工藤さんは、小学3年生の女の子と3歳の男の子のお母さん。これまでは、学校に行っても下の子が気になって落ち着いて授業が見られなかったそうです。「協力会員さんはお宅が学校に

近く、明るくおらかな方なので、子どももすぐに懐き、安心して利用することができました。今では、協力会員さんのお宅に行くのを楽しみにしています。大変助かっています」と感想を語ってくれました。

お子さんの成長を見られるのが楽しみ

「特別なことはできませんが、ご家族の希望やお子さんの好みをさりげなく伺いながらお手伝いするように心掛けています」とやさしく話してくれたのは協力会員の長谷川さん。

「活動を通して、お子さんの成長を見られることも楽しみの一つですね。時には感謝のお手紙をもらうこともあります。喜んでくださっていることが実感できて、わたしのほうが幸せをいただいています」。近所に住むお孫さんがよく遊びにくるといふ長谷川さん

は、自分の孫の相手をするような気持ちで、利用会員のお子さんと接しています。

喜びのある活動を目指しています

最後に、コーディネーターの河瀬さんにお話を聞きました。

「入会した会員さんに喜んでもらえたとき、わたしたちは本当にうれしく思います。わたし自身も実家が遠く、子育て中は不安でした。あの時ファミリー・サポート・センターが成田にあつたらどんなに助かったことかと思えます。すぐに利用しなくても安心のために会員登録している人も大勢いらっしゃいます。成田で子育てをしている方が、安心して働き、子育てができる。そして支えるほうにとつても子どもからたくさんエネルギーと幸せをもらえる。そんな『お互いに喜びのある活動』になることを目指しています」。



出会いの場を兼ねて、会員同士の交流会も開催

そのほかの 地域での子育て支援

保育園開放

子育て中の親と子のふれあいを応援するために保育園を開放しています。

対象：市内在住で保育園・幼稚園に入園していない乳幼児

開放日：月・金曜日(祝日・年末年始を除く)予約の必要はありません

場所と時間：赤荻保育園(☎24・0752) 午前9時～午後0時15分、大栄保育園(☎73・3000) 午前9時30分～午後4時30分、宗吾保育園(☎26・2472) 午前9時～午後4時、公津の杜保育園(☎29・6551) 午前9時30分～午後3時

※そのほかの保育園でも園開放を行っています。

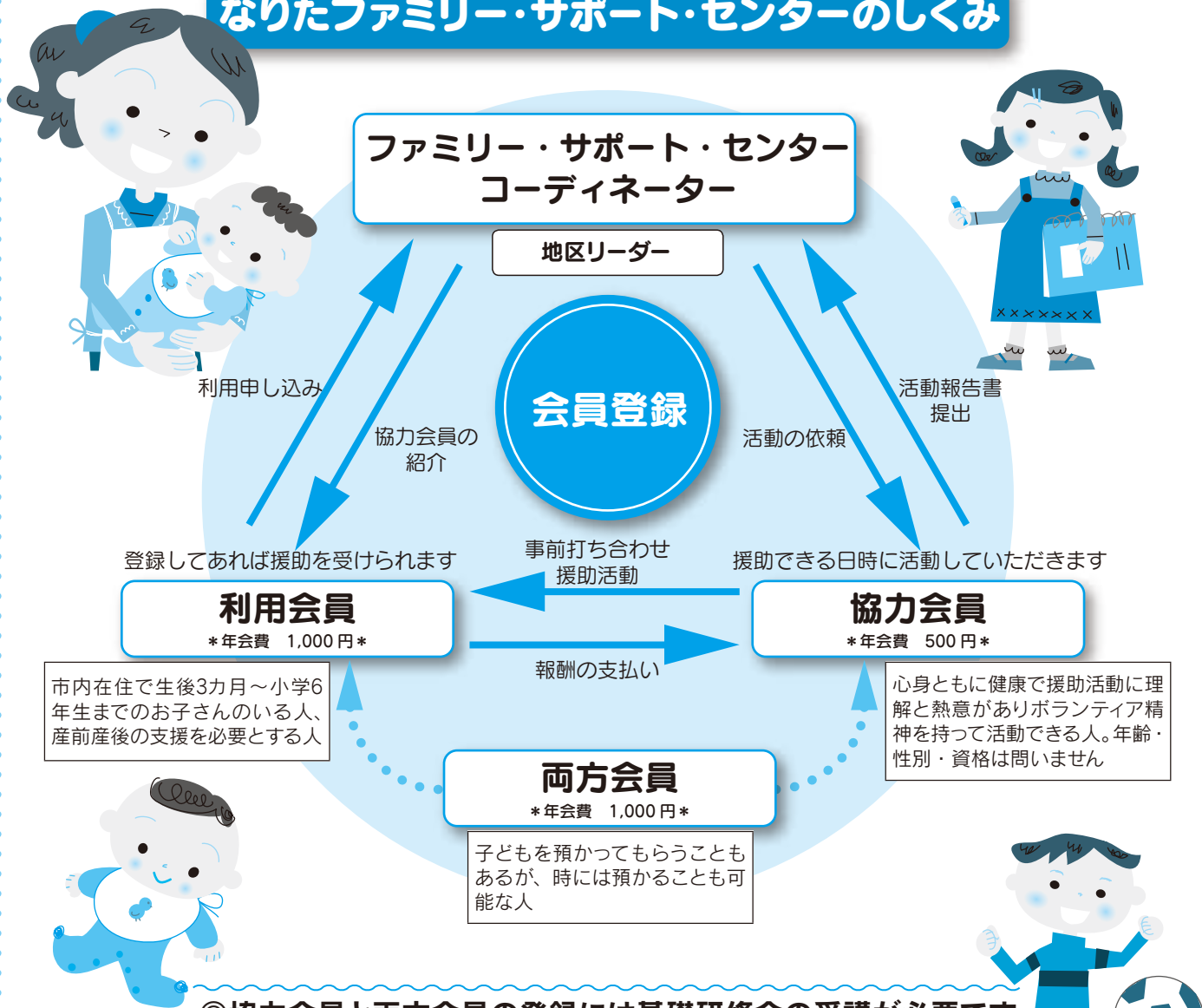
地区保健推進員の活動

遠山・下総・大栄の3地区では、保健推進員が中心となり、小さな子どもがいる人たちが一緒に遊んだり話をしたりしながら、楽しい時間を過ごせる機会を提供しています。

「遠山ミルキーキッズ」

日時：毎月第2水曜日(1月・

なりたファミリー・サポート・センターのしくみ



◎協力会員と両方会員の登録には基礎研修会の受講が必要です

活動内容

- 保育園・幼稚園・児童ホームなどの
 - ・ 送迎
 - ・ 開始時間までまたは終了後の預かり
 - ・ 休日などの臨時的預かり
- 産前・産後の家事支援
- そのほか育児のサポートを必要としている場合

料金

区分	金額
午前8時～午後 7時	1時間あたり700円
午前6時～午前 8時 午後7時～午後10時	1時間あたり800円

入会説明会

毎月11日と21日に保健福祉館で説明会を開催しています

※事前に予約が必要です

※子どもを宿泊で預かることはできません
※病児保育はしていません

※活動時間は午前6時～午後10時

- 8月は休み(午前9時30分～11時30分)
- 場所〓三里塚御料共同利用施設
問い合わせ先〓健康増進課(☎27・1111)
- 〔下総ちびっ子広場〕
日時〓毎月1回 午前9時30分～11時
場所〓保健福祉館下総分館
問い合わせ先〓下総分館(☎96・1108)
- 〔大栄地区すこやかサークル〕
日時〓毎月第2火曜日(1月・8月は休み) 午前9時30分～11時30分
場所〓保健福祉館大栄分館
問い合わせ先〓大栄分館(☎73・6881)
- ※くわしくは各問い合わせ先へ。
憩いの間
下総地域福祉センター内に、乳幼児と保護者が自由に遊べ、交流が図れるふれあいの場としてオープンしています。
日時〓毎月第4木曜日 午前9時～正午
場所〓下総地域福祉センター
「憩いの間」
※くわしくは市社会福祉協議会
下総事務所(☎96・0523)へ。

子どもを虐待から守るための5カ条

- 1 「おかしい」と感じたら迷わず連絡(通告)(通告は義務=権利)
- 2 「しつけのつもり…」は言い訳(子どもの立場で判断)
- 3 一人で抱え込まない(あなたにできることから即実行)
- 4 親の立場より子どもの立場(子どもの命が最優先)
- 5 虐待はあなたの周りでも起こりうる(特別なことではない)

児童虐待防止

周囲の人の「気付き」から始まる

虐待防止

子どもの健全な成長に悪影響を及ぼすばかりでなく、時として子どもの大切な命を奪うことすらある「児童虐待」。それは子どもにとって一番身近な「家庭」で発生しています。虐待から子どもを守るためには、周囲の人たちが、虐待にいち早く気付き、救いの手を差し延べることに。そして何よりも、虐待を未然に防ぐために子育て家庭へのサポートが必要です。

市内の児童虐待相談状況

全国の児童相談所へ寄せられた相談件数は年々増加の一途をたどっています。本市も例外ではなく、平成12年度に144件だった相談も18年度には724件と、およそ5倍にも増加しています。

相談件数増加の要因の一つとして、核家族化や都市化により祖父母や地域とのつながりが希薄になり、家庭での養育力の不足が挙げられます。また、周囲の人たちの児童虐待に対する「気付き」が増え

ていることも、相談件数増加の大きな要因と考えられます。

「こんなこと」気付き！

では、どういったことから「虐待かも?」と考えればよいのでしょうか。「あれっ、おかしいな」と次のようなことに気付いたら虐待を疑ってみてください。

■子どもの様子

- 不自然な外傷がある
 - 衣服や身体がいつも汚い
 - いつも空腹で、ガツガツ食べる
 - 夜遅くまで遊んでいる
 - 傷や家族の話に不自然な点がある
 - 夜、何時間も外に出されている
 - 顔色を伺い、おどおどしている
 - 凍りついたような眼である
- 保護者の状況
- 夫婦や家族の仲が悪く、近所で孤立している
 - 他者の意見に耳を傾けない
 - 攻撃的になりやすい、かっとなりやすい

- 小さな子どもを置いたまま、しょっちゅう外出している
- 健康や経済面で子育てが負担になっている
- 体罰を容認している

通告(連絡・相談)は

わたしたちの義務です

法律では、虐待を発見したり虐待を疑ったりした人は、市町村や児童相談所に通告しなければならぬことになっています。「通告」というと難しく思われるかもしれませんが「心配な状況に気付いたときに、市役所などに連絡・相談して、子どもの安全を確認してもらうこと」と考えてください。

通告した人の名前などがほかに漏れることは絶対にありませんのでご安心ください。

あなたからの通告が、子どもたちを虐待から守るきっかけになります。ぜひ、ご協力をお願いします。

【相談窓口】

家庭児童相談室(児童家庭課内)

☎20・1538・月～金曜日 午前9時～午後4時

子ども110番

☎23・5110(虐待専用電話) 月～金曜日 午前9時～午後4時



ためらわずに相談を(家庭児童相談室)

(夜間・休日は市役所代表電話番号22・1111)
ヤングテレホン(県警察少年センター)

☎0120・783497・月～金曜日 午前8時30分～午後5時
子ども家庭110番(中央児童相談所)

☎043・252・1152・月～金曜日 午前9時～午後8時
☎043・253・4104・土・日曜日、祝日 午前9時～午後5時

※昼夜を問わず、子どもの生命に危険が生じる場合には、まず警察に連絡し、子どもの安全を確保してください。くわしくは児童家庭課(☎20・1538)へ。

成田市次世代育成支援行動計画進ちよく状況

目指すは「市民みんなで支える
楽しい子育てのまち」

市では、平成17年度～21年度を前期の計画期間とする「成田市次世代育成支援行動計画」を策定し、安心して子どもを産み、子育てしやすい環境を作るための取り組みを行っています。

基本理念は「市民みんなですえ楽しい子育てのまち」。この基本理念の実現のため、7つの基本目標を掲げ、子どもと子育て家庭への総合的な支援を行います。

平成18年度の
主な進ちよく状況

目標1
地域における子育ての支援

- 公津の杜保育園がオープン。一時保育・休日保育も開始
- 平成19年4月から病児保育を実施(4・5ページ参照)
- 不登校児童生徒の学校復帰を目的とする教育支援センターに、担当指導主事を配置し学校

訪問や家庭訪問による不登校児童生徒との相談を実施

- 子ども館でのイベントを月2回程度開催。オカリナ教室など、ボランティアによる講座も一年を通して実施

○ 平成19年度より「子育てサポート隊を」なりたファミリー・サポート・センター」と変更。サブリダーを3人配置しサービスの充実を図る(7ページ参照)

目標2
母性並びに乳児及び幼児等の健康の確保及び増進

- 乳幼児医療費助成の助成対象年齢を4歳未満から小学校就学前までに拡大し、入院および通院に助成
- 保健福祉館で実施している「こころの健康相談」で、医師のほかにカウンセラーを導入
- 母親学級などで、妊娠期から生涯にわたっての食育を啓発

○ 栄養士を学校に派遣し、給食指導を通して食育学習を実施

目標3
子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の整備

○ 子どもの居場所づくり推進事業「成田わくわくひろば」を11地区で実施。さまざまな体験事業を学校や地域が連携し実施

目標4・6
子育てを支援する生活環境の整備・子どもの安全確保

- 下総・大栄地区の小中学校および新設の公津の杜小学校に、学情報配信システムを導入し、市内40小中学校で運用。保護者などへ、不審者情報などを配信。
- 平成19年4月には美郷台小学校にも導入
- 市内全域の防犯巡回パトロー

目標5
職業生活と家庭生活との両立の推進

ルに加え、下校時間に通学路防犯パトロールを開始



○ 児童家庭課・健康増進課・教育委員会・北総地区少年センターによる、虐待に対するネットワークを整備し連絡体制を強化。また虐待の未然防止のため、年3回程度ケース会議を開催

○ 公津の杜児童ホームがオープン。平成19年4月には美郷台児童ホームがオープン

目標7
要支援児童への対応等やきめ細やかな取組の推進

※成田市次世代育成支援行動計画および平成18年度までの進ちよく状況については児童家庭課ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sosiki/jido/index.html>)に公表いたします。くわしくは同課(☎201-538)へ。